

乳がんについて知ろう！あなたとあなたの大切な人のために

その2

日本では16人に1人がかかるといわれる乳がん。治癒率を高めるには「早期発見」が基本です。今回は、痛みが軽減されたマンモグラフィ検査「3Dトモシンセシス」についてご説明します。



宇都宮セントラルクリニック理事・医師
佐藤俊彦氏

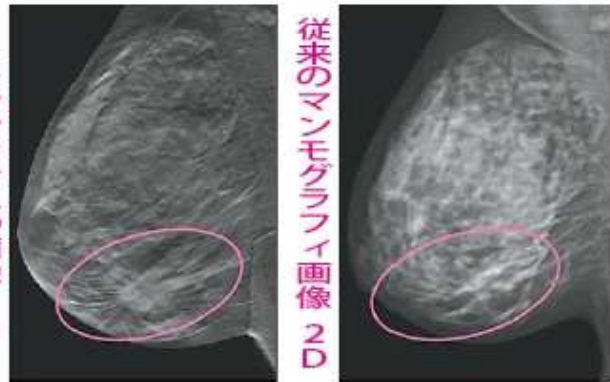
・セントラルメディカル倶楽部顧問医
・野口記念インターナショナル画像診断クリニック院長

・主な著書
『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』（幻冬舎）、他多数

テーマ トモシンセシスによるマンモグラフィー検診

日本女性のマンモグラフィ検査の受診率は約20%で、米国のは85%に比べて極めて低い結果となっています。理由の一つは、乳房が小さいため挟みにくく、痛みがあるためです。また、デンスブレスト（脂肪が少ない固い乳腺組織）のために評価不可能となることが多く、超音波検査などの精密検査へ回されることがあります。痛みがひどくて二度

と受けたくないという女性が多いことを耳にして、当院では3D超音波検診（ABVSI、2000）を5年前に導入しました。さらに今回、導入した「3Dトモシンセシス」は、従来は1枚まで乳房をつぶして写真撮影していましたが、4枚程度でも撮影が可能となり大幅に痛みが改善されました。また、3Dで1ミリスライスの断層画像を撮影することで、診断能力も向上しています。最も精度が高く、痛みも大幅に軽減した3Dトモシンセシスでの検診をお勧めします。



従来のマンモグラフィ画像 2D

トモシンセシスの画像 3D

次回は「最新鋭の乳房専用PET検査装置 PEMについて」のお話です。

乳がん検診実施中



医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック

宇都宮市屋板町 561 - 3

<http://www.ucc.or.jp>

☎ 028・657・5215

宇都宮セントラルクリニック 検索

PR